

## 平成22年度研究科横断型教育プログラム（Bタイプ）授業科目

担当部局名	人文科学研究所			授業の場所	人文研本館 1F セミナー1		
授業科目名	フィクション論の諸相——SF、映画、マンガ、歌謡曲、ヴァーチャル・リアリティー			講義担当者 所属・氏名	人文科学研究所・大浦康介 大阪教育大学(非常勤講師)・近藤秀樹 総合博物館・塩瀬隆之 人文科学研究所・久保昭博		
対象	修士 博士後期 専門職	コマ数	4コマ	開講 日時	6月3, 10, 17, 24日(各木曜) 18時30分～20時	授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕							
<p>小説、演劇、映画、テレビ・ドラマ、漫画、アニメ、各種ゲームなど、われわれは日頃からさまざまな形のフィクションに囲まれて生きている。本講義では、そのうちのいくつかを取り上げ、それらはフィクションとしてどう位置づけられるかを考えると同時に、ヴァーチャル・リアリティーに代表されるような、近年の科学技術が可能にした「現実の見え方・見せ方」についても論じたい。</p> <p>【研究科横断型教育の概要・目的】 人文科学研究所においては、これまで、定例の公開講演会を開催してきました。所員が講師をつとめ、時には統一テーマのもと、主として学生・院生、そして一般市民を対象とした講演を行なっています。平成17年度4月からは、これらに加え、共同研究班(後述)の最新成果にもとづく「共同研究セミナー」、「レクチャー・コンサート」、タイムリーな議題を討議する「特別シンポジウム」など、人文科学研究所が行う一連の講座、講演会等をまとめて、「人文研アカデミー」として再編してきました。アカデミーのカレンダーポスターも作成し、学内外で配布しています。年間30回近くにおよぶ講座、講演会を通じ、研究所の研究成果の公開という従来の機能をさらに充実させるだけでなく、学内他部局や学外組織とも連携しつつ、大学という枠を越えた新たな情報発信、社会貢献の道を創出しています。今回の研究科横断型教育プログラムにおいて、人文科学研究所のこうした活動を教育資源として活用することを検討しています。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>第1回:6月3日(木) 大浦康介「透明人間の夢——科学の進歩とく本当らしさ」</p> <p>第2回:6月10日(木) 近藤秀樹「遊び時間の終わり——遊びのなかの虚構、虚構のなかの遊び」</p> <p>第3回:6月17日(木) 塩瀬隆之「ヴァーチャル・リアリティー——科学技術が可能にする現実の見え方・見せ方」</p> <p>第4回:6月24日(木) 久保昭博「あなたはどこ？私はだれ？——歌謡曲のフィクション論に向けて」</p>							
〔履修要件〕							
・各回でテーマ(講師)が異なるため、コマ単位で受講してもよいこととする。							
〔成績評価の方法・基準〕							
・2単位相当の受講証明書を必要とする場合で、当科目で課題のレポートを作成する場合は、1コマについてのレポートにより評価する。							
〔教科書〕							
なし(適宜プリントを配付)							
〔参考書等〕							
特になし							
〔その他〕							
・本講義は、人文科学研究所の「人文研アカデミー」が主催する一般向け講座のひとつでもあるので、大学院生以外にも開かれています(登録不要・無料で、参加予定人数は不明です)。							